

コミュニケーション力と
創造力で、
明日の北海道農業を輝かせる。

J A 北海道中央会 の仕事。

JA Hokkaido Chuokai

Job Description



J A 北海道中央会

J A 北海道中央会の仕事とは。

一人ひとりが経営者である農家が、組合員となりひとつにまとまり、さまざまな活動を通して助け合う組織が農業協同組合=JAです。そしてJAによって組織され、ともに連携する専門機関が中央会を含む連合会です。食料自給率200%を誇る日本の食料基地で、道内約35万人の組合員から成るJAグループ北海道。組合員を主体に形づくられる逆ピラミッドの構造の中で、JA北海道中央会は、グループを代表するポジションにあり、JAを、日本の食を担う農家をしっかりと支え続けることが仕事です。

**北海道農業と
JAを豊かにするために、
力を尽くす。**

私たちは「北海道農業を、JAを元気にしたい」という情熱を持って、組合員の目線に立ち、できること、すべきことを実現している機関です。仕事は、農家の所得向上に向けた政策の提案やJA経営の相談対応など、“サポートをした成果”が問われるものであり、職員それぞれの資質、人の力が活きる職場であると言えます。

多様な仕事を経験できる、幅広い事業活動。

あらゆる面からの農業振興のサポート、農業制度・政策の立案、経営コンサルティング、消費者への情報発信など、北海道農業を支える幅広い事業において、多様な仕事にチャレンジできるのが魅力です。

少数精銳で、若いうちから活躍できる職場。

職員数は全体で200名弱と、北海道の連合会の中では最も小さな組織です。しかし規模が小さいからこそ、若いうちからいろいろなフィールドで責任ある仕事を任せられ活躍することができます。



独自性や多様性、先進性をもつと。

多岐に渡る事業を、トータルに推進。

農業の担い手の減少、国際貿易を取り巻く環境の変化など、大きな転換点にある北海道農業を、全道のJA、連合会とともに豊かな未来へ向かって牽引していくのが私たちの使命です。人事異動のサイクルは3~5年周期。本所内での異動や道内外での勤務を通して各事業を経験し、農業に関する専門分野はもちろん、企画やプレゼンテーションといったビジネススキルなど、自らを成長させられる多様な能力を身につけていく職場です。

本 所 札幌 (3部3室)

農政対策部

北海道農業を守る

農業者や地域の声をまとめ、各種提案や支援策など国や道へ農業政策提言活動を行う。



協同活動推進室

北海道農業を担うリーダーの育成

農業者の組織である青年部・女性部の事務局業務を通じて、農業の魅力発信や、北海道農業を担うリーダーの育成を支援する。



総合企画室

グループの意志を結集

全道JA役職員による大会を開催し、全道が一丸となって向かうグループの方針を策定、取り組みを進める。



J A 総合支援部

持続可能な北海道農業へ

次代の担い手確保など、北海道の課題を総合的にサポート。法律の改正や税制の変更などについて、JAでスマートに対応できるよう資料提供や、説明会を通じてサポート。



総合管理室

北海道農業の応援団づくり

イベントやSNSを通じて、北海道農業やJAグループ北海道の魅力を発信する。北海道の食や農業を応援してもらうサポートづくりに取り組む。



総務部

会全体を支える要

人事・労務・採用・福利厚生・備品・公宅管理など、多分野の事務を担当。



支 所 (道内 6ヶ所、東京)



現場で多くの生の声を聞き、各JAとともに地域の課題解決を推進。また、各JAが抱える経営上の様々な課題について、解決に向けた支援を行う。

○ 東京事務所

国や各機関とのパイプ役となり、より力強い北海道農業の実現をサポート。



ABOUT WORK

仕事について、今思うこと。

JA北海道中央会の仕事は、とにかく“広くて、深い”。その全体像を把握し、新たなステップを踏み出そうとしている中堅職員たちが、今思うこととは。



本所 農政対策部 北海道 旭川市出身

2012年入会 / 商学部卒

小松 龍太

Ryuta Komatsu

2012年
2013~17年
2018年
2019年

本所 経営企画課
北見支所
本所 農政企画課
本所 農政対策部

自分なりの仕事の工夫

使い勝手を考えながら選び、活用してきたスケジュール帳。仕事とプライベートのスケジュール管理は、デジタル派も多い中、しっかり手書き派。入会以来の大切な記録でもある。

アイディアを出し、
オリジナリティのある仕事をしたい。

最初はJAの経営支援・監査の仕事に就き、入会前には漠然としていた経営支援というひと言の中に、どんな仕事があるものなのかを具体的に理解していきました。簡単に言うと、JAの目線に立ち、たとえば中期経営計画の策定支援などといった総合的な経営のサポートを行っていくのですが、全てのJAに同じことが当てはまる訳ではもちろんなく、それぞれに抱えている問題などもあります。そうした中で、問題を投げかけられ適切な回答ができた時にはとても嬉しかったですね。

再び本所に配属になった現在は、農業制度や政策に関わる仕事をしています。これは大きく経営と営農・農政の2分野がある会の仕事で、双方を経験したいという私の希望が叶った異動でした。仕事で関わるのは道内各JAや地区の代表者、連合会の役員といった目上の方々ばかりで、国への要請で集結する際の段取りや、さまざまな情勢を共有するための会議を開いたりと、一般的には部長や課長クラスの役職者が対応するような仕事を、先輩や上司のサポートのもと任せもらっています。非常に緊張もしますが、責任のある仕事にやりがいを感じています。仕事に対しては、常にいろいろなアイディアを出して、前年同様ではない、些細なことでも自分なりの何かがプラスされたオリジナリティのある仕事をていきたいと考えながら取り組んでいます。

① ある1日のスケジュール

全道から役員が集う、毎月末の定例会議の前日の場合。会議直前まで、最新情勢などの確認を行いながら準備を進める。

8:30	出勤、メールなど確認
8:55	朝礼
9:00	会議資料の最終チェック
11:00	課内で会議資料を確認
12:00	昼食
13:00	資料、説明コメントの準備
15:00	会議室の準備
16:00	資料の最終確認
17:00	退勤

説明会で印象的だった、
“人が財産”ということを、実感。

JAの方から「誰に相談していいのかわからないんだけど、松村さんにまず聞いてみようと思って」という電話をいただくのが一番の喜びです。支所に配属されて目の当たりにしてきたのは、先輩たちが電話で親身になって相談を受けている姿。現場の人たちが何を考え、何に困っているかといった声や情報が直接入ってくる支所という場で、私も先輩たちのように頼りにされる存在になりたいです。単に仕事の担当だからということではなく、この人に相談しようと思ってもらえることは、就活の時に説明会で聞いて印象的だった“人が財産”ということにつながっています。そしてそれは、JAの皆さんに、その先の農業の担い手の皆さんへつながっていくことだとも思います。

入会前に、パンフレットやWEBサイトなど、いろいろ見たり読んだりしましたが、実際はそれよりももっといろいろな仕事をしていることがわかった今は、トータルなものの見方や視野を広げることをめざしています。会では女性総合職はまだ少ないですが、今後は女性の後輩の入会も増え、幅広いフィールドで活躍してくれるのではと期待しています。支所も本所も人数が少い分、職員同士のコミュニケーションもしやすく、働きやすい職場だと思いますので、会にもっと女性の皆さんに入ってきてもらいたいと思います。



岩見沢支所

北海道 釧路市出身

2015年入会 / 農学部卒

松村 成美

Narumi Matsumura

2015年

2016年

2017年

本所 農業振興部 地域振興課

本所 営農指導支援センター 営農指導課

岩見沢支所

② ある1日のスケジュール

1日中、管内JAを回り、担当者と面談する日の場合。資料作成などで1日内勤という日もある。

8:50	出勤、メール確認
9:00	朝礼、前日の報告書作成
10:30	管内JAで打ち合わせ1
12:00	昼食
13:00	管内JAで打ち合わせ2
14:30	管内JAで打ち合わせ3
16:00	翌日のアポ確認、資料準備など
17:00	退勤



自分なりの仕事の工夫

1ページを半分のスペースに区切り、会議や打ち合わせ、面談や電話した人毎に、ペンの色を変え、内容をつぶさにメモしているノート。仕事のキーワードが潜む資料でもある。



REAL VOICE

職員たちが語る、仕事の、会の魅力。

新入職員を囲んで、直属の先輩と同じ部署の先輩が語り合う。仕事のやりがい、会の魅力、会内のヨコのつながり、タテのつながりについて。



仕事の魅力、会の魅力は？

太田 営農業務全般を担当していますが、具体的には担い手や労働力不足の問題、農地活用、外国人材の雇用や農作業の安全対策など、営農に紐づく全てを請け負っていると言える、非常に広範でボリュームも増えつつある仕事です。昨年の胆振東部地震の際には、すぐに東京へ飛び、各方面に向けた支援要請に奔走しました。災害現場に行くことだけではない後方支援に回り、結果としてさまざまな支援が実行され、現地の皆さんのお役に立つことができました。本当にいろいろな仕事に携わることができる職場だと思います。

升田 私は同じ部署ですが、法令改正時の対応、会計や税務の実務処理のアドバイスなど、経営支援の仕事をしています。会には、支所がフロントラインとなり、本所はバックラインでそのサポートをするという考え方があり、私たちは全JAの経営体制を俯瞰しながら、さらにサポートするという役割を担っています。仕事の中には、全道108のJAに宛てて文書を発信

するというものがあります。必要情報を伝えるだけではなく、自分が考えた進め方で皆さんに動いていただく文書を作成するということで、気が張る仕事ですが、その文書が全道へ行き渡るという影響力の大きさにやりがいを感じています。

小古井 まだ入会したてですが、私も調査報告の取りまとめや文書作成などを手伝わせてもらっています。直属の上司である太田さんに、細かいことまで詳しく教えていただきながら、幅広い知識に刺激を受けています。本当に多岐にわたっていろいろな仕事があり、それらが北海道農業の豊かさにつながっている、すごく大きな仕事をしているんだなと思っています。

升田 各JAにさまざまな情報を届けるのも会の仕事であり、どの部署でも資料作成の機会は多いですし、大事な任務のひとつです。

太田 JAの方々や関係各所の方々と対面して話を聞き、その中から拾い上げたことが仕事につながることもあり、人と話す機会が多い

い仕事もあります。文章力を含め、コミュニケーション能力が仕事の上で重要な意味を持っています。

升田 そのため、入会10年目くらいまでは、文章力、プレゼン力、企画力などの基礎スキルを上げる研修が各種用意されています。その後は各自行きたい研修を申請でき、自分たちが受けたい研修先を見つけて、オリジナルの研修を組み立てたりすることもあります。仕事の中には、JA職員などの研修で講師になることもあるので、外部研修を積極的に受けられる体制が充実しています。こうした研修もそうですが、会には自分で新しいことを考え、仕掛け、動かすことを受け入れてくれる風土があります。

小古井 スキルアップの環境が整っているのはとても魅力です。まずは1日も早く仕事を覚えて、戦力になりたいです。そして近い将来には、会の仕事の中に、女性としての、若い世代だからこそ、何か新しい視点を持ち込めたら良いなと思っています。

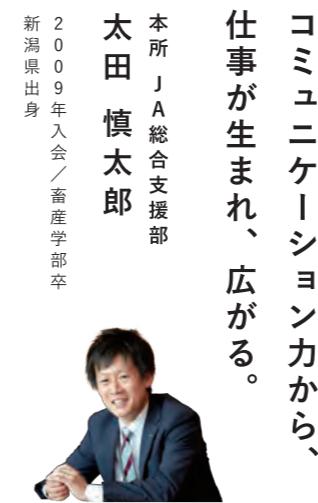
新潟県出身
2009年入会／畜産学部卒

太田 慎太郎
本所 JA 総合支援部

小古井 季
本所 JA 総合支援部

富山県出身
2019年入会／経済学部卒

升田 智大
本所 JA 総合支援部



会の雰囲気は？働きやすさは？

升田 部内も同期も少人数なので、上司には相談に乗ってもらいやすい環境があり、とくに同期は同じ部署に配属になることもあります。頼りになる存在で、公私ともに仲が良いです。

太田 コンパクトな組織なので、部署内はもちろんですが、各部署と一緒に仕事をすることも多く、飲みに行くこともあります。

升田 いろいろな部署の人たちと交流を深められるのは、仕事の上でもプラスになります。

「農家実習」もある、 新入職員研修



充実した 研修プログラム

全道各JA・連合会の新採用職員の皆さんとともに宿泊研修へ。その後、JAで1ヶ月研修し、各部門の仕事を体験しながら業務内容を理解。その間の5日間、農家実習も行われます。

北海道・北広島市出身
2011年入会／経済学部卒

升田 智大
本所 JA 総合支援部



北海道農業の豊かさにつながる
とても大きな仕事。

太田 休日については、週末の休みは確実に取れて、お盆とお正月もしっかり休めます。福利厚生では、公宅に入っているんですが、広い庭があり家庭菜園を楽しんでいます。それこそプロがいるのでアドバイスをもらい、超小規模農家として多品種少量栽培を楽しんでいます。

小古井 私も学生時代はアウトドアのサークルに入り、登山やハイキング、サイクリングなどを楽しんでいたので、ぜひ作りましょう。



入会からずっと。スキルアップを支援。

「農協監査士」試験合格に 向けたバックアップ

講習会への参加、模擬試験の実施や先輩職員のサポートなど、国家資格「農業協同組合監査士」の早期合格へ向けた体制もしっかりと整っています。

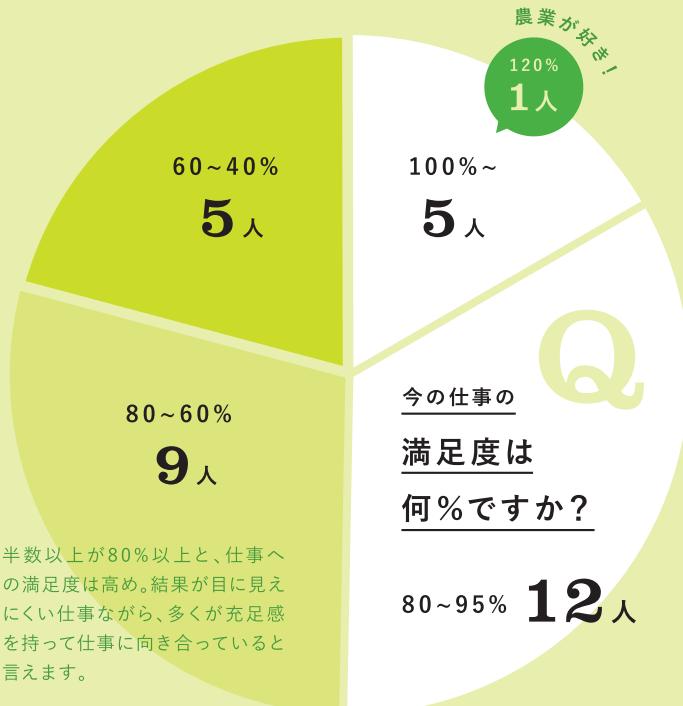
自主性を、新しい挑戦を
歓迎してくれる風土がある。



from U35 アンケート

35歳以下の職員たちのリアルな答え。

どんな思いを持って働いているのか、“今”に満足しているのか。みんなの声を聞いてみました。

**Q** 休日の過ごし方は？

- 1位** 家族と一緒に過ごす。
子どもと遊ぶ。
- 2位** 趣味を楽しむ。
スポーツ、ドライブ、ショッピングなど
- 3位** 家でゆっくりする。

Q この仕事を選んだ理由は？

- 1位** 北海道農業への貢献
ほぼ全員が同じ思い！
- 地元が誇る基幹産業だから、日本の食を支える大きな仕事だから、北海道のためになるからなどなど。つながっている、みんなの思い！

Q 仕事のやりがいを感じるのはどんな時？

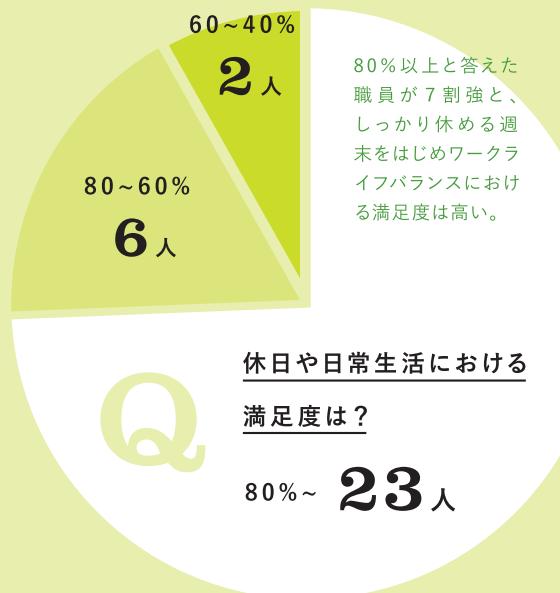
J Aの職員や組合員の農業者の方々に感謝されたとき(回答者多数！)

自分のアイディアを活かした仕事をしているとき。

企画段階から自分が中心となって取り組んだ仕事が無事終了したとき。

大きな会議や準備したイベントが終わったとき。

人対人の仕事ならではの手応えを感じている職員が多数。自主性を尊重し、責任を持たせてもらえる仕事の醍醐味も魅力に。



JA北海道中央会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1 北農ビル10階

TEL 011-232-6405 FAX 011-232-6418

<http://www.ja-hokkaido.jp>